

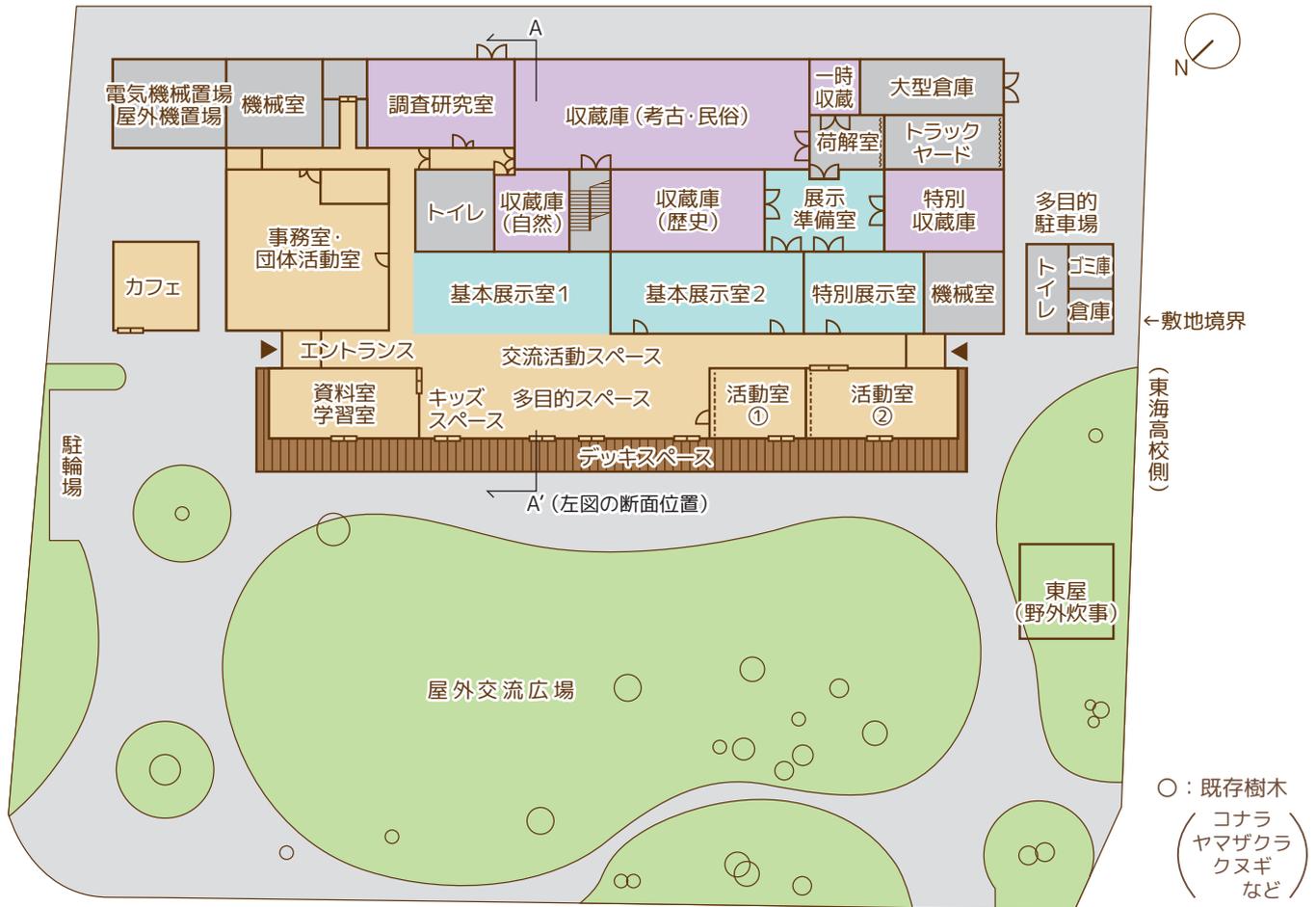
どこまでできたの？ 交流館

歴史と未来の交流館整備通信 vol. 3

このたび、「(仮称)歴史と未来の交流館(以下「交流館」)」の実施設計がまとまりましたので概要をお知らせします。なお、展示室の内容など実施設計の詳細については、村公式ホームページで公開していますので、ご覧ください。

【問い合わせ】生涯学習課(仮称)歴史と未来の交流館整備推進室(☎282-1711 内線1424)

(東海消防署側)



(文教エリア側)

※敷地を最大限に活用するため、駐車場は文教エリアに整備する予定です。

多目的スペース・交流活動スペース [318㎡]

- 基本展示室1を含む、施設の特徴的な大空間です。
- 小さな子どもが遊べるキッズスペースもあります。
- 創作活動や昔遊びなど、さまざまな体験・イベントもできます。

活動室①・② [121㎡] ※教室2つ分の大きさ

- どんぐりクッキー作りなどの調理体験や科学実験ができるIH調理器や流し台を設置しています。
- 間仕切り壁を動かすと、多目的スペースとの一体的な利用が可能です。

屋外交流広場

- 既存樹木の木立を感じながら、自由に遊べる空間であり、ベンチでもくつろげる憩いの場です。
- 東屋のかまどや水場では、野外炊事やデイキャンプなどを体験することができます。

展示室 [257㎡]

(1) 基本展示室1 [105㎡]

- 子どもから大人まで楽しみながら郷土が学べる、体験・体感エリアのある展示室です。
- 壁のない明るい空間です。村の自然環境とその中でつくられた風土を分かりやすく展示します。
- 展示をきっかけに多世代間の交流が生まれます。

(2) 基本展示室2 [92㎡]

- 実物資料が持つ迫力をじっくり見ることができる展示室です。
- 先人たちがどのように村の歴史を作ってきたのかを6つのストーリーで特徴的な村の歴史として展示します。

(3) 特別展示室 [60㎡]

- 基本展示では語りきれない村の歴史や自然をさまざまなテーマで企画展示します。
- 他館から借用してきた貴重な資料を展示することができます。



●ここが魅力！展示＆活動のポイント

交流館は、「見る・触れる・体験する・交流する」をキーワードに子どもから大人まで楽しみながら学び、活動できる施設です。展示と活動について、それぞれのポイントをご紹介します。

【展示のポイント】

- ◇性質の異なる3つの展示室に、村の風土とその上に成り立つ歴史を展示します。
- ◇四季に応じて展示が変わる、郷土を体感できる展示を行います。
- ◇交流館を拠点として活動が村全体に広がり、その成果が交流館に蓄積・展示へ反映される循環型の活動「とうかいまるごと博物館」を展開します。

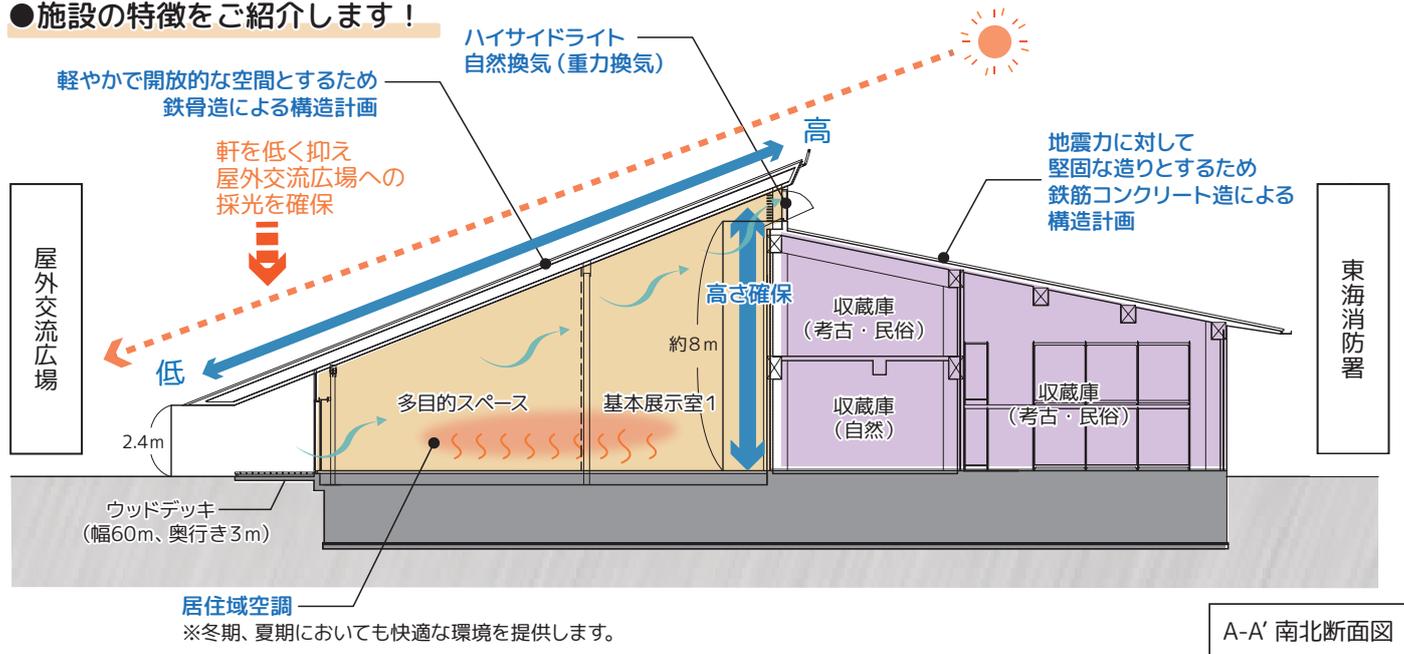
【活動のポイント】

- ◇歴史や自然、科学など、体験しながら学べる活動を実施します。
- ◇遊びや体験活動での交流を通して子どもの自主性や創造性、社会性を育みます。
- ◇多世代の人と人、人とモノの交流を通して、村民の郷土愛を育みます。



エントランスからの眺め(イメージ)

●施設の特徴をご紹介します！



- ◇来館者利用スペースを全て1階に配置し、授乳室や多目的トイレの設置など、ユニバーサルデザインに配慮しています。
- ◇貴重な文化財を守るため、特別収納庫、特別展示室、基本展示室2に窒素ガス消火設備を設置しています。
- ◇文教エリアとの連携を図るため、東海消防署側に建物を配置し、文教エリア側に間口いっぱいの屋外交流広場を設けています。

●建設関連費について

建設費については、展示制作を含め予算ベースで15億8,900万円となっており、関連経費では、工事監理で5,401万円となっています。現時点で、備品購入費として1億8,400万円、維持管理費としては、光熱水費や委託料など約3,140万円を見込んでいます。なお、国交付金(7億円)を基金として積み立てており、建設財源の一部に充てる計画です。

●今後の予定

建築工事は令和2年12月、展示制作は令和3年2月に完成する予定です。その後、文化財移設等の準備を進め、令和3年7月の開館を目指して取り組んでいきます。